

第3回中野区構造改革推進アドバイザー会議 議事要旨

【開催概要】

日 時：令和4年3月10日（木） 午前10時から12時まで
会 場：中野区役所4階庁議室
出席者：資料1のとおり
進 行：若生座長

【会議概要】

1. 開会

午前10時に開会した。
事務局より、今村久美アドバイザー欠席の旨、連絡があった。

2. 議事

(1) 令和3年度の取組結果及び令和4年度の主な取組予定について

事務局から資料2により「令和3年度の取組結果及び令和4年度の主な取組予定」について説明があった。

(2) 持続可能な区政運営の実現に向けて

事務局から資料3により「持続可能な区政運営の実現に向けて」について説明があり、以下のとおりアドバイザーと幹部職員とのディスカッションが行われた。

(中井アドバイザー)

子どもを増やしていきたいのは分かるが、社会情勢、土地やマンションの価格と供給量等、様々な要素が関連している。影響を加味して施策につなげていくことが重要であり、子育て先進区を目指すというだけではうまくいかない。

(区（石井企画部構造改革担当部長）)

中野駅周辺や東中野地域は人口が増える傾向にあり、待機児童を減らすため保育園の誘致を進めてきた。今後も地域の状況等をとらえながら、保育サービスの供給量も調整していく。

(中井アドバイザー)

供給量が増えたが需要が増えない状態になった時に、需要が増えない原因が不明ということになりがちなので、手段と目的をよく考えないといけない。

(区(白土副区長))

子どもが減っていくのは住宅の問題が一番大きい。良好な住環境を供給することはまちづくりの問題である。区内に単身・木造の賃貸住宅が密集していることから、防災まちづくりを推進している。子育て先進区や地域包括ケア体制の実現に向けた課題も、突き詰めていくとまちづくりの問題になる。今後中野はどういう姿を描き、どこに力を入れていくのか。相互に問題は関連しているという視点で、幹部職員も議論する必要がある。

(若生座長)

子育て先進区になるためには、転出や転入の理由を分析し、他自治体と比較して、中野区の競合はどこなのかを分析していく必要がある。子育て支援の充実は、他自治体も同じことを目指して競合している。それでも選ばれる区にするためには、先進的な取組が必要である。政策の立案や検討段階から根本的な議論を日頃から行っているのか。中野を好きな人が選ぶのではなく、中野に興味のない人が選んでくれる状態を目指さないと、子育て先進区は実現しないと思う。

選ばれるためには「教育」は大きな要素である。教育で他自治体より先行できるかどうかであると思う。他区と比べて公立教育で先進的な取組があれば大きな要素になる。

(永嶋アドバイザー)

子育て先進区は何年後を見据えているのか。中野区の将来人口推計では、2035年まで人口が増え続けるが、生産年齢人口が減ることで歳入は減り、高齢者の人口が増えていく。待機児童対策で整備・誘致する保育園もいずれは余剰分ができたり、高齢者が増えていけば、高齢者向けの施設も整備する必要がある。子育て先進区は良いと思うが、2050年以降も見据えた施策を検討すべき。

(区(森企画部財政課長))

高齢者が増えると介護保険給付や医療費が伸びていく。一方で、子どもが減ると保育園の給付費や子どもの医療費助成が減る。今の状況では歳入の増加を見据えているが、いずれは歳入の伸びが鈍化して、歳出の伸びが大きくなることも想定される。2040年、2050年を見据えた分析が必要だと思っている。

(区(酒井区長))

日本が持続していくためには子育て世帯が暮らしやすく、子どもが増えていけないといけない。その意味も込めて子育て先進区を目指している。

(若生座長)

既に高齢者が減り始めている自治体も地方ではあるが、東京23区は人口が

維持される。しかし、若い世代は増えず、国全体では人口が減っていく。

(永嶋アドバイザー)

人口が減っていく中で、どのような政策をするのか。G7の中でも日本が一番高齢者人口の割合が高い。子育て先進区は決して悪いことではないが、総合的なプランの中で考えたら良いと思う。

(若生座長)

良い状況の時に経営改革をしない限り、良い状況は維持できない。事業経費を削ることばかりを続けていくと、全く新しい発想が生み出されなくなっていく。ビルド・アンド・スクラップは良い言葉だと思っており、ビルドしたいものがあるからスクラップをするということ。様々な課題の中で、エビデンスに基づいて本当にやるべきことが生み出されているのか。職員が意見を出しやすい環境にあることも非常に重要な要素である。新しい施策や事業は出てくる状況なのか。

(区(白土副区長))

構造改革を行うために実行プログラムを定めたが、構造改革の一番の肝は区有施設整備計画だと思っている。将来を見据えた区有施設全体の議論を、エビデンスを示しながら地道にしていく必要がある。

(区(高橋企画部長))

新しい施策や事業が出てくるためには、職員に余力を持たせて、外部研修や派遣も活用しながら経験を積ませる必要がある。

(永嶋アドバイザー)

私も現役の自治体職員の際に、改善すべきと感じた点は多くあったが、最終的には管理職に却下されることが多い。若手職員の意見を吸い上げる仕組みがあれば良いと思う。逆に管理職が旗振り役にならないといけない。ただ、通常業務に追われているので、そこをどうすべきかという課題は大きいとは思う。

(山本アドバイザー)

何か発想する時は、大体止めるのは内部の人である。克服するためには、推進をしてくれる人が必要である。一つ動き始めて、芽が出てくると他もどんどん出てくる。プロジェクトで進めていく方法もあると思う。

(永嶋アドバイザー)

私が現役の際に債権管理一元化を全国で初めて行った時は、債権を所管している課長を集めてプレゼンを行い、マネジメントから様々変えていくのは大変

だったが、実行すると幹部職員や議会の賛同も得られるようになった。改革は下の職員では幾らやっても駄目で、幹部職員が先導すれば変わっていくと思う。

(区(白土副区長))

業務改善をやること自体は良いことだが、特に若い職員が、自分の仕事の業務改善の範囲で止まってしまうことに危惧している。中野区全体がこれからどうしていかなければならないかという広い視野を持って政策を立案していく必要がある、そういった視点を若い職員に持ってほしい。データ分析を行い、プロジェクトを組んで政策提案するような若手職員の取組が必要である。

(中井アドバイザー)

区役所新庁舎ができ、場や雰囲気が変わることは絶好の機会である。さらにチャンスにしてもらいたいのは、中野駅周辺のエリアマネジメントである。特にソフトの部分で、どう取り組んでいくか。トライアンドエラーができるエリアマネジメントにして欲しいが、職員も思いつきでも失敗してもいいから取り組み、駄目でも次のチャンスに取り組める場を設定してもらいたい。様々な知見を持った人たちとの出会いが増え、職員の成長に繋がる大きなチャンスがあると思う。

(区(高村企画部広聴・広報課長))

シティプロモーションでは民間事業者と一緒に取り組んでいる。壁画を描くアーティストに依頼し、資金はクラウドファンディングを活用し、JR中野駅と鷺宮小学校に壁画を作成した。区は調整役として交渉や許可の手続き、広報等を行った。区がコーディネーター役を担って取組を拡充していきたい。

(区(入野教育長))

教育のソフト面で抜きこんでいくことは難しい。教育の質には良い人材の確保が重要である。教員は、短ければ3年、長くても6年で異動するが、教員に選ばれる区にすることが私の役目だと思っている。私立への進学率を見ると、中野区の公立は頑張っているという認識を持っている。公立を選ぶ人が多いということは、中野に住み続けてくれるということなので、そのような視点でも考えていきたい。

(区(海老沢総務部長))

中野が何故子育て先進区を目指すのかということ、幹部職員が職員の発想を膨らませるための投げかけを行う必要がある。政策を展開する上では、横の展開を大切にしていかなければならない。新庁舎移転後は、ウェブ会議を自席でできるようにすることを検討している。議論のあり方から変えていければ、新しい発想は生まれてくる。また、職員が政策発表できる場も作っていければと考えて

いる。

(若生座長)

酒井区長が考える子育て先進区の姿を職員に語りかけて、その上であなたは
どう思うかという問いかけを常に繰り返して浸透を図っていく。それは様々な
政策においても幹部職員がしていくべきである。

(区(中谷総務部職員課長))

将来のまちの姿や人口構成を見据えたエビデンスに基づく立案、また、人口構
成の変動が財政や行政サービスに及ぼす影響を分析し立案することが必要であ
る。中野区では、職員提案制度や研修、業務改善運動も長年取り組んでおり、発
言する場はあると思っている。幹部職員の意識啓発や行動変容が必要である。

(区(堀越企画部企画課長))

幹部職員の意識啓発や意識醸成が大事だと感じた事例として、基本計画にお
ける重点プロジェクトがある。3つのプロジェクトごとに、関係する課長級職員
でチームをつくり、幹部職員が今までの経験や意見を交えて議論を進めている。

(区(酒井区長))

職員は地域活動の経験が少なく、他の自治体や民間企業との交流もないため、
職員には地域に出てもらいたいと言っており、それが職員の成長に大きく繋が
ると思っている。今後も外部の方にご助言いただきながら、組織の風土を変えて
いきたい。

3. その他

事務局より、ディスカッションの総括があった。

4. 閉会

午前12時に閉会した。

以上